

## 第17回「中村元東方学術賞」授賞理由

受賞者 竹村 牧男 東洋大学教授

第17回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員長 前田専學（東方研究会理事長）

2007年10月10日インド大使館

竹村牧男博士は、一九四八年二月のお生まれで、東京大学文学部・同大学院人文科学研究科に学び、その後、東京大学文学部助手、文化庁文化部宗務課専門職員、三重大学人文学部助教授、筑波大学助教授及び教授(哲学・思想学系)を経て、二〇〇二年四月より東洋大学文学部教授を務めておられます。一九九三年には、東京大学から博士(文学)の学位を得られ、一九八四年には、日本印度学仏教学会賞を受賞、一九八六年には、『大乘起信論読釈』により日本宗教学会賞を受賞しておられます。

氏の業績は、著書・単著二十三冊、共著七冊を数え、論文は多数に及んでおります。その内容は、①唯識思想研究、②『大乘起信論』及び華嚴思想研究、③禅思想研究及び日本仏教研究、④浄土教の研究、そして⑤西田幾多郎・鈴木大拙の宗教哲学研究と、多岐な領域にわたっております。以下、それらの主たる業績についてご説明いたします。

まず最初に、①唯識思想研究に関する中心的なご業績は、学位論文『唯識三性説の研究』（一九九五年、春秋社）であります。本書は、弥勒から護法までの唯識思想史の中、特に三性説を主題に唯識思想の特質を解明したものであります。この研究の結果、それまでの三性説の一般的理解に反し、弥勒等から護法に至るまで、一貫して同一の論理構造が継承されていたことが跡付けられました。その成果は仏教学を超えて哲学・比較思想学などの近隣分野にも大きな影響を与えました。なお、博士は、他にも唯識関係の一般向けの解説書を数冊刊行しておられますが、唯識思想を事的世界観として把握する独創的な立場からの的確な説明には定評があります。

次に、②『大乘起信論』及び華嚴思想研究に関していえば、博士はかなり若い時期に『大乘起信論読釈』（一九八五年、山喜房仏書林）を発表しておられます。この書物は、『大乘起信論』の全体について、諸註釈に基づきその思想を解説したものです。しかし単なる解説にとどまらず、広汎な箇所をわたって地論宗の用語及び思想との近似性を指摘し、従来、真諦訳と伝えられてきた『大乘起信論』

は、実はインドから中国にかけての地論系統において成立したのではないかという問題を提起して、学界に新鮮な衝撃を与えました。さらに二〇〇二年度にNHK教育テレビで毎月一回放映された「ブッダの宇宙を語る——華嚴思想」は『華嚴経』と華嚴宗の華嚴思想の全般的な解説として好評を博し、そのテキストは『華嚴とは何か』（二〇〇四年、春秋社）として刊行されました。

博士の第三の研究領域である③禅思想研究にも多彩な研究活動が認められますが、それは博士が学生時代より禅の実習に取り組んでこられた経緯によるものと思われます。この分野においては、最近、『正法眼藏講義』として、「現成公案」（二〇〇五年、大法輪閣）、「仏性」（上・下、二〇〇七年、同前）の巻をあいっいで刊行、道元の仏性観を、「透体脱落」に求める等、禅の体験をふまえた宗教哲学的なアプローチから、新鮮な解説を行っておられます。また『禅と唯識』（二〇〇六年、同前）は、一見、異なる様式を持つ両者が瑜伽行を共通の地盤として基本的に通底した自己存在の究明があることを詳しく描いたもので、禅道と仏教学との双方を修めた博士ならではの作となっております。

また、第四の領域である④浄土教に関しては、『親鸞と一遍』（一九九九年、法蔵館）などが注目を引きまます。同書は、主に三心と還相の問題に関して、親鸞と一遍の立場を対比させつつ、浄土教の本質的な問題の所在を明らかにしたもので、宗学的把握を超える斬新な視点を提供しておられます。氏の親鸞思想研究の一環として、東洋大学文学部紀要に発表された「信心の業識」について」（二〇〇七年）と題する論文は、親鸞のいう「信心の業識」が、『起信論』の報身を見る業識」と深い関係にあることを明かにされた点で重要であります。

さらに、第五の領域である⑤西田幾多郎・鈴木大拙の宗教哲学に関してみると、博士は、『西田幾多郎と仏教』（二〇〇二年、大東出版社）、『西田幾多郎と鈴木大拙』（二〇〇四年、同前）の二つの著作を刊行しておられます。この二つの著作は、西田の宗教哲学についての研究を飛躍的に進めたもの、とって過言ではないと思います。

また博士は、著作の業績のみでなく、二〇〇七年度前期の世田谷市民大学への出講に象徴されるように、学問の社会的還元にも熱心に取り組んでおられます。

以上、博士の業績を概観致しました。その業績はただ多彩であるというだけでなく、いずれも単なる文献学にとどまらず、常に真摯な宗教哲学的な関心のもとに叙述がなされ、しばしば常識的な了解をくつがえす斬新な視点を提供しております。博士のご研究の成果は、まことに輝かしいものがあり、仏教学研究の諸領域において新生面をひらかれたご功績は、中村元東方学術賞にまことに相応しいものと判断され、今回の授賞となった次第であります。

